胃粘膜の萎縮度調査報告

○宮野　浩[1)]、玉井　嵩留[1)]、上田　章仁[1)]、宮本　修治[1)]、石水　敦史[1)]、大西　弘高[1)]、井上　裕美[1)]
川上　壽昭[1)]、北井　浩一朗[1)]、蔵原　一郎[2)]、
[1)]公益財団法人愛媛県総合保健協会 [2)]蔵原放射線科

【背景】

胃がんリスクの主要因とされるピロリ菌感染率の低下および除菌療法の効果により胃がんリスクの減少が予想されることを踏まえ、胃がん検診の対象年齢や検診期間の見直しが図られるようになった。しかし、未だに発見される胃癌は多いのが現状である。胃がんリスクの指標である胃粘膜萎縮の現状を把握した上で、対象年齢と検診間隔を再検討していく必要があるのではないか。

【目的】

胃がん検診を効果的に実施するには、背景粘膜の萎縮状態を把握することが重要であることから、X 線画像を用いて各世代の萎縮の現状と胃粘膜の萎縮状態を分析し、今後の対策型胃がん検診のあり方について再検討する。

【方法】

当施設の対策型胃X線検診を受診した者（2019年4月から10月末）の中から1,009名を無作為抽出し、①ひだ分布、②胃体部胃小区模様、③前庭部胃小区模様について日本消化器がん検診学会が定める基準に従い分類し、その胃粘膜の萎縮状態を判定した。対象者の年齢分布を図1に示す。

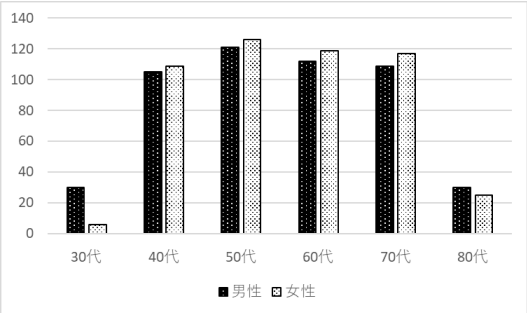

図1　年齢分布

【結果】

胃粘膜の萎縮状態において、男女別萎縮割合を図2に示す。胃粘膜の年代別萎縮の状態を①全体を図3、②男性を図4、③女性を図5に示す。年齢が高くなるにつれ萎縮が強くなり、男性は女性に比べ萎縮傾向にある結果となった。

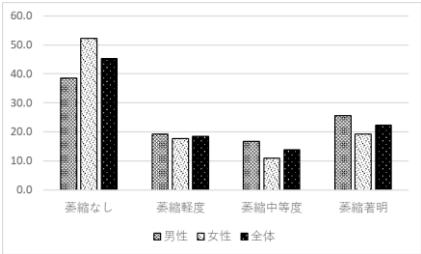

図　2　男女別萎縮割合

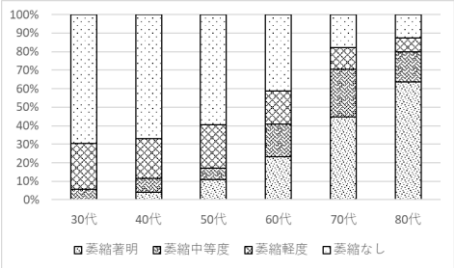

図3　年齢別萎縮の状態（全体）

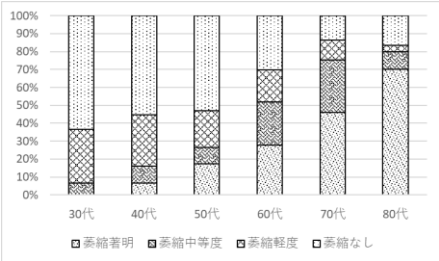

図 4　年代別萎縮の状態（男性）

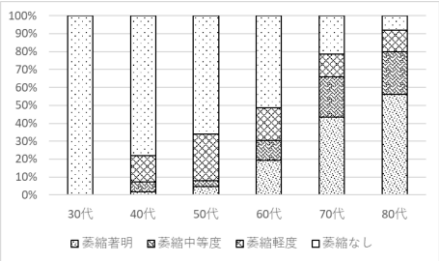

図5　年代別萎縮の状態（女性）

【参考文献】

1. 胃 X 線検診のための読影判定区分アトラス
　編集　日本消化器がん検診学会
　　胃 X 線検診の読影基準に関する研究会
2. これなら見逃せない胃 X 線読影法虎の巻
　著者　中原慶太